＝　つながる・つなげる　＝

東京土産としてデパートやお土産店等で売られている「ごまたまご」。ＡＰ２３春季取り組みのオルグで激励品として届けてきた。コロナ禍で訪問が叶わぬ時期もあったが、大きな環境変化の中での取り組み、その重要性も鑑みスケジュールのとれる範疇で、いくつかの加盟組合事務所を回らせていただいた。

三役、中央執行委員や職員の皆さんにお会いし、オルグの趣旨や春季取り組みの思いを語り、組織一丸となって結果を導き出そうとの心合わせを目的に。

えっ、それはいいけど、なんで、「ごまたまご」かって？…。お答えしましょう、その前に、私は決して製造・販売元の宣伝マンではない、誤解なきよう。

組織が一丸となってこそ、ＡＰ２３春季取り組みは事を成す。この激励品は、「上から読んでも、下から読んでも『ごまたまご』」、どちらから読んでも同じ言葉・意味合いのものを回文というが、私なりの解釈と思い入れで。

企業連本部、執行部の思いは職場第一線の役員、仲間に届いているか？組合員の声は執行部、個々の役員に届いているか、しっかりつかんでいるか？ということを考え、行動してほしい、そんな思いからである。

コロナ禍、対面かなわず、つながるということの難しさを思い知らされてきただけに、双方向に風を回すことの重要性を改めて意識してもらおう、そのアイテムが「ごまたまご」なのである。

そして、事務所では語っていないもう一つの意味合い。日本人にとってあまり馴染みのない「イースター・復活祭（今年は４月９日・日曜日）」、海外ではクリスマス以上の意味を持つといわれており、大勢でパーティーやゲームなどのお祝い事をする。イースターのシンボルとして登場するのが生命や復活、繁栄の象徴いわれる卵やうさぎ。特に卵にはイエス・キリストが殻を破って復活したという意味も込められ、新たな命が宿るものとして、盛沢山の卵料理がふるまわれるという。そして、イースター・Easter の語源は、古代ゲルマン神話の春の女神の名前「Easter(エオストレ)」からきている説もあり、春の訪れを祝うという意味も込められている。春季取り組み、言い換えればみんなの幸せつかむ「春取り」…。ほんと、そこまで委員長考えた？という疑問の声も聞こえるが、考えた～(笑)

ともあれ、職場の声を聴き、活動に活かし、結果を導き出す、運動の好循環、つながりがなければ労働運動は前に進まない。

そんな、つながることの大切さを面白可笑しく扱っている機関紙を見つけた。山陽特殊鋼労組の「思いっきりフリートーク」のコーナー。

「日曜日の朝、組合の人が来られて慌てて玄関へ…。頭をドーン。鍵開けたのにチェーンロックを外し忘れてました。「安全オルグです。そこまで慌てなくても大丈夫ですよ」と一言。恥ずかしいやら痛いやら、本当に「ご安全に」ですね。**⇒おっちょこちょいな主婦**

「うちの息子が１月で 18 歳になった。４月の統一地方選が初めての選挙。二人に一人が投票に行かん中「絶対に投票に行く」と意気込んどる。ホンマに頼もしいなぁ。それに比べて…。」**⇒我が子を誇らしく思う親**

「気ぃついたら 60 歳。42 年もよ一働いたなぁ。けど、まだ５年ある。給料そのままなんは感謝しとる。もう一花咲かせるためにも退職金ＵＰ頑張ってよ。」**⇒委員長の同級生**

「姫路城マラソン。ツレから急にＬＩＮＥが来た。なんや思って開いたら寛平ちゃんとのツーショット。ポーズ見たら血ぃ吸うたろか～。血ぃ吸うとらんと空気吸わんかい！」**⇒真面目に突っ込むK。**

職場の思いや期待、仲間とのつながりを感じさせてくれる。いいね～。

私も一つ、「ごまたまご」に負けぬ回文を。毎朝見るのは、『新聞紙；しんぶんし』、４月は２回ほど帰るか、『妻が待つ；つまがまつ』我が家へ。帰ったら声なき声で、『何度も戻んな；なんどももどんな』、なんてことにならぬよう…。

ご安全に

2023年４月１日

日本基幹産業労働組合連合会

中央執行委員長　神田 健一